

出張報告

報告日 令和8年10月1日

会 派 名	社会クラブ・柏崎のみらい連合
報告者氏名	池野里美
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	令和8年度第2回市町村長等・議会議員セミナー受講
日 時	R8/7/27(月) 12:30 ~ R8/7/28(火)12:20
場 所 (会場)	全国市町村国際文化研修所（J I AM）滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
調査項目等	① 農と食と健康を守るためのサプライチェーンの再構築 ② 生成 AI は議会をどう変えるか？～住民参加と政策力強化の観点から～ ③ 公民連携で地域を再生する～オガールが実践してきた協働のデザイン～ ④ 政策議会の質問力
概 要	令和8年度第2回 市町村長等・議会議員研修 <7月27日(月)> 11:00 受付 13:00 開講式 13:15～14:45 【講義①】 「農と食と健康を守るための サプライチェーンの再構築」 講師:泉大津市長 南出賢一氏  南出市長を囲んで集合写真 15:05～16:35 【講義②】 「生成 AI は議会をどう変えるか？～住民参加 と政策力強化の観点から～」 講師:早稲田大学デモクラシー創造研究所 招聘研究員 16:45～事務連絡・入寮オリエンテーション <7月28日(火)> 9:00～10:30 【講義③】 「公民連携で地域を再生する～オガールが実践 してきた協働のデザイン～」 講師:株式会社オガール 代表取締役  JIAM セミナー会場

	10：50～12：20 【講義】「政策議会の質問力」 講師：法政大学法学部政治学科 教授 12：20 閉校式
所 感 等	【講義①】「農と食と健康を守るためのサプライチェーンの再構築」 南出市長は SNS で話題になっており、以前から面白い取組をされている方だと思っていたが、今回直接話を聞くことができ、予想以上に発想が豊かで、「医食同源」の観点の下、食や健康を大切にして信念をもって市政に当たられている方でとても感銘を受けた。 特に印象に残っている話は、多様化する子育てを取り巻く課題や環境に対応するため、全国初のマタニティ応援プロジェクトとして、出産予定月までの間、毎月 10 kg の栄養価の高い「金芽米」をプレゼントする取組である。妊婦さんからは、「無洗米なので手軽に炊ける」「米の価格高騰の中でありがたい」「妊娠期にお米を買いに行くのもしんどい中で毎月届けていただき助かる」等と好評で、体調も安定するといった声も聞かれているとのことだった。 また、学校給食には、連携する農村地域から質の高い「オーガニック米」や「特別栽培米」を直接購入し、金芽米に加工して提供している。都市部で自分の自治体で作れない分、連携先の自治体へ市長自ら出向き、田んぼの状況を確認し、農家さんと直接やりとりするなど、全国 14 自治体と農業連携協定を締結している。農業者から直接定量のお米を購入することは、農家への収入安定につながり、有機栽培や特別栽培をしてもらうことで、市民へは安心でおいしいお米を安定した価格で提供することができ、お互いに Win-Win な仕組みであり、とてもすばらしいと感じた。いつか泉大津市へ視察に伺ってみたいと思うとても魅力的な講義であり、柏崎市でも参考になる講義であった。 【講義②】「生成 AI は議会をどう変えるか？～住民参加と政策力強化の観点から～」 近年の生成 AI の進化はすごいものがある。個人的には専門用語などを使っ ての説明には、正直ついていけないと感じる部分もあるが、まずは、効果的に使えるように学ぶことが必要と感じた。生成 AI を効果的に活用できるようになれば、例えば、音声を文字起こしするだけでは、議会特有の書式や言い回し、公文書としての表記ルールまでは整わないものを、過去の会議録や会議資料、公文書の作成ルールなどを生成 AI に参照させることで、複数の段階に分けて文章を整えることができる。浜田市議会の事例では、生成 AI を活用することで、会議録の作成時間は、従来の丸 2 日から半日程度へと短縮され、削減された時間を議員支援や政策立案支援など、より時間をかけるべき業務に振り向けられるようになったということである。 生成 AI をうまく活用することは、これからの議会活動の中で重要になってくると考える。個人的にもだが、議会でも生成 AI について学び、活用する際の規則を決める必要も出てくると感じた。議会運営の効率化に向けて、具体的な活用方法を考えるきっかけになる講義であった。

【講義③】「公民連携で地域を再生する～オガールが実践してきた協働のデザイン～」

岩手県紫波町という小さな町のオガールの事例は、以前に民間事業者の開催した話し合いでも聴いたことがあったが、非常に魅力的でワクワクするような内容であった。当時の紫波町長から、「紫波町を日本で一番、住んでよかったという町にしてほしい」という依頼に、まずは、環境や景観に配慮したまちづくりを表現する場として、塩漬けとなっていた町有地を、民間主導の「公民連携」手法で開発し、財政負担を最小限に抑え、公共施設整備と民間施設立地による経済開発を進めてきた。

講師はアメリカの大学で不動産学を学び、建築ではなく不動産の観点からまちづくりを進めてきた。単なる魅力的な公共施設を建てるだけではなく、まずは、建物の周りの景観を整備し、人が集まりたいと思える空間にすることが先という言葉は目からうろこであった。

また、世界で一番競技人口が多いバレーボールに着目し、日本初のバレーボール専用コートを建設し、宿泊施設「オガールイン」も併設。当初は大反対されたが、野球場などで今更勝負しても選ばれない。選ばれるためには、ほかがやっていないことをすることで世界から見つけてもらえるという言葉が胸に響いた。現在では、日本国内のプロチームの合宿に活用されているほか、海外の代表チームが毎年合宿で訪れる場となっており、地元の小・中学校での交流も生まれているとのことであった。柏崎市においても、水球のまちとして世界から選ばれるために、非常に参考にできる事例であると感じた。選ばれるまちになるために、柏崎の良さを生かしたまちづくりのデザインを考えるきっかけとなる講義であった。

【講義④】「政策議会の質問力」

冒頭の、「たかが一般質問。されど一般質問」という言葉が心に残っている。一般質問はどの議員にも与えられている権利ではあるが、義務ではない。やるのもやらないのも自由である。しかし、議会の中で、市長や担当部局に直接、公の場で市民の代表として質問することができる貴重な機会であると言える。そのためには、事前に十分調査をし、課題はどこにあり、どうしたらよくなるのか、論点を整理して質問を組み立てていくことが必要不可欠である。そして、他議会においては、同じテーマで視点を変えながら複数の議員が一般質問をする事例もあると伺った。

議員として日常的にどのように情報収集し、どのように住民と向き合っていくのが重要だという点がとても心に残った。自分の議会活動の見直しにつながる有意義な講義であった。